



若山 加代子 議員

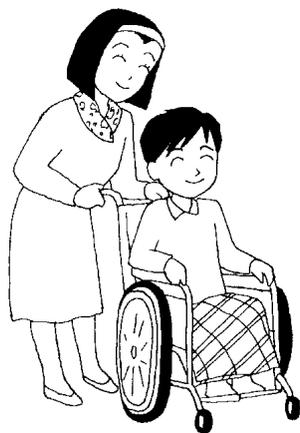
障がいのある人の命を守るまちづくりを

要援護者の把握と災害時要援護者支援計画について

【問】いつ起きるかわからない災害に備えて、援護が必要な方の把握が急がれる。要援護者台帳への登録状況は。また制度の周知は十分されているのか。

【答】現在約1000人が登録している。平成20年に登録を受け付けるときに、お知らせをしてきた。その後は民生児童委員が直接対象者にお知らせするなどしている。

【問】策定中の要援護者支援計画に位置付ける要援護対象者の範囲



【答】市町村の実情に合わせて対象者を決めるようになっている。支援者については、対象者の希望を聞いて決める。希望がない場合は町内会の役員などに支援してもらおうように考えている。

【問】市町村の実情に合わせて対象者を決めるようになっている。支援者については、対象者の希望を聞いて決める。希望がない場合は町内会の役員などに支援してもらおうように考えている。

国民健康保険料の引き下げについて

【問】全国的には一般会計から繰り入れを増やし保険料の引き下げを決定する自治体が増える傾向にある。加入者への負担が限界に達している今、高山市も一般会計からの繰り入れを増やし、保険料を引き下げるべきではないか。

【答】国保の制度は、国、県、市の負担を引いた残りを保険料で負担するというもの。一般会計からの繰り入れを増やす考えはない。

【問】年間所得の13%が保険料という重い負担をしている。市民の生存権を守るために一般会計からの繰り入れを決定すべきではないか。

【答】所得が低い方には、軽減で対応している。一般会計からの投入は望ましくないという国からの指摘もあり、繰り入れを増やす考えはない。



松山 篤夫 議員

地域に根ざした森林・林業プランを！

森林・林業の再生策について

【問】森林保全と地域経済活性化につながる「土佐の森方式」が全国各地に広がりつつある。一般の山主でも軽トラ

【答】高山市の林家の現状と資産価値を高める資源管理の具体策は。

【問】高山市においてこのような取り組みが可能かどうか、今後研究してみたい。

【答】箸や木質燃料、チップの材料として、

また、針葉樹の薪をストープに使用するのにも有効な活用策であると考える。

【問】高山市の林家の現状と資産価値を高める資源管理の具体策は。

【答】所有面積5ヘクタール以下の小規模森林所有者が全体の半数である。山離れが進み、小規模な森林所有者への助成支援を行っているが、今後はよりきめ細かな説明や情報提供を行い地域の活性化につなげたい。

観光事業の傾向と対策について

【問】観光客の増加・減少の状況を見ると、震災での減少があった平成23年度は別にしても、外国人客は増加してい

るが、国内客数は明らかに減少している。シルバー世代とヤング層の高山市訪問の状況と今後の見通しは。

【答】10代、20代の観光客は、減少しており、逆に60歳以上の観光客は増加している。

高齢層に対しては様々な観光資源を積極的にPRして、滞在・周遊型の観光につなげたい。若い世代に対しては情報発信を強化していきたい。

【問】昇龍道プロジェクトが市民にどの程度周知されているのか。

【答】観光関連の事業所を中心に周知をされてはいるが、市民の皆様にはまだまだなので、広報たかやまやホームページ等により、周知の取り組みを積極的に行っていく。



「昇龍道プロジェクト」ロゴ